



豊かな暮らしが 息づくまち

津市PRキャラクター
シロモチくん

1 暮らしと経済を支える 都市基盤の整備

道路・橋・海岸堤防など生活に密着したインフラの老朽化が進む中、これからも安全で安心して暮らせるまちであるよう、暮らしと経済活動を支えるインフラの長寿命化や更新を計画的に進めています。

また津市の大動脈の一つ、中勢バイパスの4車線化・交差点の立体化など、道路ネットワークの整備によって、より暮らしやすいまちを目指しています。



全線開通した中勢バイパス



津興橋の架け替え工事



大谷踏切の拡幅・改良工事

2 最新技術で自然・生活環境に 最大限の配慮を

津市リサイクルセンターは、ごみの資源化のための中間処理だけでなく、環境について学ぶ拠点施設として、自然観察会やリサイクル講習会など、さまざまな学習の場を提供しています。

また、津市一般廃棄物最終処分場は、自治体が設置する一般廃棄物最終処分場としては全国初の埋め立て前にごみを洗浄する前処理施設を導入。使用した水や埋め立てごみからの浸出水は全て浄化処理されて再び洗浄水等に活用する循環利用方式を採用しています。環境に最大限配慮した、これからの時代にふさわしい施設です。



津市リサイクルセンター



津市一般廃棄物最終処分場



野鳥観察会



環境学習センター

3 カーボンニュートラルの取り組み 循環型社会を目指して

2022年、津市は「津市地域脱炭素宣言」を行いました。市域の約6割を占める森林が温室効果ガスの吸収に貢献し、市内の全消費電力量の5割以上を再生可能エネルギーで賄える津市は、世界規模で喫緊の課題となっている地球温暖化対策を地域の課題解決の機会と捉え、この取り組みに共感する市民、事業者、団体等と共に脱炭素行動を実践・実行・実施していくことで地域の未来に責任を果たすべく、2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロ(カーボンニュートラル)の達成に挑みます。

動画でチェック

津市長による
地域脱炭素宣言



パートナーシップ
協定による連携・協力



青山高原の
風車群



校舎の屋上に
太陽光発電を設置



つ・環境
フェスタ

4 地域の特性を生かした 次世代につなぐ農業

津市では水稻をはじめ、麦、大豆、ソバ、キャベツなど幅広く農業に取り組んでいます。しかし近年、人口減少や高齢化により担い手不足が課題となっています。

そこで関係機関が地域の人と一体となって、地域農業の将来を考え、地域計画の策定を進めるとともに、耕作放棄地の解消や未然防止など、市独自の営農支援策を行っています。



市民農業塾



農林水産まつり

津の 農業人

JAみえなか
美杉清流米部会 会長
中尾 安志 さん

高齢化に伴う担い手不足や獣害など、農業の課題は多いですが、地の利を生かした農作物を作り続けて津市を盛り上げていきたいです。定期的に開催している農業体験で、都市部から参加した子どもが「じいちゃんの作る米、おいしい!」と言ってくると、収穫以上の喜びを感じます。今後も生産者と消費者の架け橋になり、先祖から受け継いだこの田畑を未来に残していきたいです。

5 豊かな森林を守り 未来に引き継ぐ



津市では森林環境譲与税を活用した取り組みにより森林経営の集積化や森林の整備、木材利用の促進を行い、持続可能な森林整備を進めています。

また、木のぬくもりを知り、森林への興味を持っていただくために、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用して「森と緑の親子塾」や「まるごと林業体験」を開催し、次世代を担うこどもたちや林業に関心のある人へPRを行っています。



森と緑の親子塾



まるごと林業体験